

第3期 平成28年度 新宿区多文化共生まちづくり会議 第2回暮らし部会 議事概要

日 時 平成29年3月13日（月）15:00～17:00

場 所 区役所本庁舎3F 302会議室

出席委員 川村委員、郭委員、長谷部委員、小野委員、余委員、センブ委員、鈴木委員、バー
バー委員、金（朋）委員、梶村委員、安藤委員、井上委員、森田委員 13名

欠席委員 丁委員、ファトマワティ委員、本多委員 3名

1 開会

2 ごみ等に関する主管課の取組みについて

以下について、各担当から説明があった。

<交通対策課自転車対策係より>

路上等障害物による通行の障害の防止に関する条例と放置自転車対策について

<新宿清掃事務所作業係より>

資源・ごみの分け方、出し方の多言語チラシを通じた周知について

<環境対策課公害対策係より>

騒音、匂い、臭気に関する相談内容と事業者への指導について

3 区が行ってきた交流の事例、多文化共生施策について

交流の事例（多文化共生連絡会、多文化防災フェスタ）と多文化共生関連施策一覧（WEBで公開中）の説明があった。

4 コミュニケーションの場、交流事例について

各委員から事例発表があった。

- ・国際結婚家庭や日本生まれの子どもや留学生など、日本語と外国語の両方を話せて、双方の文化や習慣を知る人にボランティアとして関わってもらおうと良い。区内大学等と連携してみるのはいかがでしょうか。
- ・関心がないと人は集まらない。課題解決のために話し合う場を設定してもそれぞれが問題と感ずることが違っていたり、愚痴の言い合いに終始したり、結局解決にはならない。
- ・多文化防災フェスタのような交流の場で、ごみの分別や自転車駐輪について周知する取組みができると良いのではないかと。
- ・外国人の自分は、これまで積極的に日本人に関わろうと努力してきた。接点を持てる場

を用意してもらうのを待つのではなく、自ら関わろうとする意識が必要だと思う。

- ・関わることで、お互いに対する意識が変わる。学校や職場など、実際に関わるのが一番効果的と感じている。
- ・特定の国や地域に興味関心がある人はいるが、「日本」と「外国」という分け方で交流の仕掛けを作ることに難しさを感じる。
- ・交流の場を設定しても、1つの催しとして終わることが多い。
- ・交流イベントを企画したところ、準備やそれに係る人材や経費が大変だった。気楽に、繰り返しできるようなものでないと続かない。
- ・新宿区に多く暮らす留学生は、交流の場を求めているものの、学業とアルバイトとで時間的余裕がないのが現状である。きっかけとして、教員が交流の場に連れていくことができたらしら思っている。
- ・会議としては、積極的に触れあう機会づくりということでもとめてはどうか。新宿区の外国人住民は流動性が高いが、短い期間でも新宿区に住んでよかったと思えるような、新宿区が好きなところを皆で共有できたら良い。
- ・地域を大切に思っていて且つ交流したいと考える人に交流を手伝ってもらってはどうか。
- ・学校等で子どもに対してごみのルールなどの教育を行うと、家庭内で両親にレクチャーしてくれる。子ども向けに働きかけることも効果的ではないか。
- ・多文化共生施策一覧を見て、このようにたくさん取り組みがあることを再認識した。外国語でも発信してほしい。また、印刷物についてはしんじゅく多文化共生プラザ等の一か所でまとめて閲覧できる状態にできたら良い。

5 その他

事務局から次回の会議について説明があった。

6 閉会